

組織的な若手研究者等海外派遣プログラム報告書

氏名： 伊藤 雅之	提出日：平成 24年 9月 11日
東南アジア研究所における職名： 助教 *右記の該当する職位に○をつけて下さい。(講師・ 助教 ・助手・ポスドク・博士課程学生・修士課程学生・学部学生)	
派遣先の研究機関等(調査を実施した国名・機関名(日本語で記載)及びカウンターパート名)： インドネシア共和国/ハサヌディン大学/海洋科学・水産学部/アンディ・アムリ講師 *派遣先の研究機関等の種類について右記の該当する箇所に○をつけてください。(大学 研究機関・企業・その他)	
派遣先の研究機関等での職名：	
派遣期間： 平成 24年 8月 25日 ~ 平成 24年 9月 4日 (派遣日数： 11日)	
研究活動等の主な内容(該当する番号に○をつけてください。複数可) ① 究・実験 ② フィールドワーク ③ セミナー ④ インターンシップ ⑤ サマースクール等の講習 ⑥ 学会出席 ⑦ 単位取得等 ⑧ その他	
研究活動の主な領域(該当する番号に1つ○をつけて下さい。) ① 人文学 ② 社会科学 ③ 数物系科学 ④ 化学 ⑤ 工学 ⑥ 生物学 ⑦ 農学 ⑧ 医歯薬学 ⑨ 総合領域 ⑩ 複合新領域	
派遣の概要(500~700字程度) 8月26日~29日 ジャワ島、バンドンにあるLAPAN(インドネシア航空宇宙研究所)にて行われたHumanosphere Science Schoolにて講師として講演を行い、他の講演者や現地研究者と今後の研究の連携について打ち合わせを行った。 8月29日~9月3日 スラウェシ島、マカッサルにあるハサヌディン大学にて、海洋科学・水産学部のアンディアムリ講師らと、「東南アジアの島々における持続的開発と生存に関するワークショップ」に参加 参加者や大学関係者らと今後の研究連携について打ち合わせを行った。 マカッサル近海の島嶼部と山岳地帯(タナトラジャ)へのフィールドトリップの際に、河川下流から上流部までの河川水試料を採取した。	
事業に係る研究成果(500~700字程度) 今回の派遣は、現地研究者と今後の共同研究について打ち合わせること、また、そのための予備試料の採取を目的とした。バンドンではLIPI(インドネシア科学院)の研究者と今後の共同シンポジウムについて打ち合わせをするなど、国内外の研究者と交流を深めることができた。シンポジウムは、LIPI、LAPAN、京都大学生存圏研究所、東南アジア研究所の共催で毎年行われており、宇宙科学から気象学、土壌学、木質工学など多岐にわたる内容で行われた。申請者は、さまざまな生態系(特に熱帯域)における温室効果ガスの動態についての講演を行い、現地研究者やバンドン工科大学の学生などから質問を受けた。 また、マカッサル、ハサヌディン大学では4日間にわたるワークショップとフィールドトリップに現地研究者の同行のもと、参加した。特に土壌学の研究者などと議論をし、現地における農地からの温暖化ガス削減への取り組みについて意見交換した。フィールドトリップでは現地の農業の現状や排水処理の状況などを観察するとともに、同行した保健学者とともに、河川や飲料水などの水試料を採取し、帰国後に化学分析を行う予定である。 現地のカウンターパートであるアンディアムリ講師と、今後の共同研究について打ち合わせを行うことができ、非常に有意義な派遣となった。	